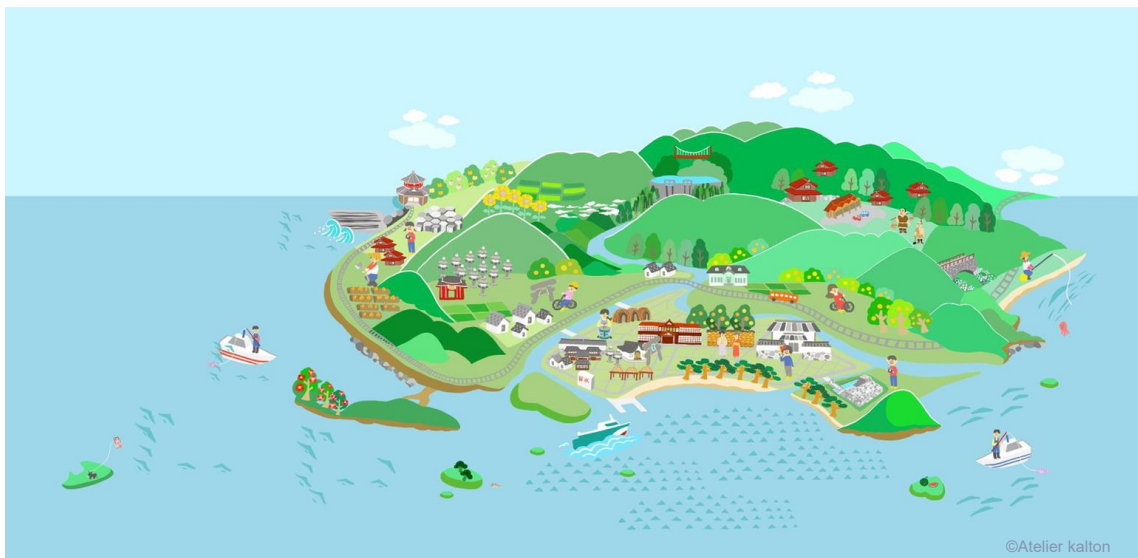


萩まちじゅう博物館 基本計画・行動計画

改定版



山口県 萩市

目 次

1. 計画の概要	P1
1-1 計画策定の背景	
1-2 計画の位置づけ	
1-3 計画の目的と基本的な考え方	
1-4 計画期間	
1-5 計画の実施・検証体制	
2. 「萩まちじゅう博物館」基本計画	P4
2-1 めざす将来像	
2-2 将来像の実現に向けたミッション	
2-3 萩まちじゅう博物館の仕組み	
3. 「萩まちじゅう博物館」行動計画	P12
3-1 おたからの再発見・保存・活用・魅力発信	
3-2 おたからを通じた多様なコミュニティの形成・活動の推進	
3-3 おたからを活かした経済活動の推進	
3-4 おたからを活かす人材の育成	

1 計画の概要

1-1 計画策定の背景

平成 16（2004）年、萩市は萩まちじゅう博物館条例を制定し、「萩まちじゅう博物館構想」とその下の基本計画・行動計画を策定しました。まち全体を屋根のない博物館としてとらえ、広く存在する自然・文化・産業・歴史の“おたから”を守り・育て・活かして行く、「萩まちじゅう博物館」の取り組みは、市民や NPO 等の参画による官民協働という新しい発想により行われてきました。

しかしその一方で、日本の地方において激しさを増す少子化や人口減少による地域活力の低下現象は、萩市も例外なく襲い、その打開は最重要かつ喫緊の課題となっています。

このような背景と課題に対応し、萩のおたからを活かした協働によるまちづくり、観光地づくりを推進するため、令和 2 年 10 月に「萩まちじゅう博物館構想」を改定しました。

この改定された構想がめざすものは、「萩まちじゅう博物館」の活動と経済活動をこれまで以上に緊密にリンクさせることで、「萩」のブランド化を一層推進し、市民の生業を安定・発展させ定住を促進するとともに、繰り返し訪れる観光客などの交流人口の増大、さらにはその先に移住やビジネス進出・起業を萩の地で構想するような関係人口を創造することです。

自然・文化・産業・歴史に恵まれた豊かな萩市をさらなる発展に導くため、こうした様々な課題を解決し、次のステージへと進む道しるべとして本計画を定めます。

1-2 計画の位置づけ

本計画は、萩市基本ビジョンを支える 3 つの構想のひとつである「萩まちじゅう博物館構想」を、今後の萩のまちづくり・観光地づくりの様々な局面において実現していくための「めざすべき将来像の再設定＝基本計画」および「その将来像を実体化するための手順＝行動計画」をわかりやすく示すものです。

1-3 計画の目的と基本的な考え方

萩の“おたから”を活かした協働によるまちづくり・観光地づくり

本計画は、改定された「萩まちじゅう博物館構想」に示す「萩の“おたから”を活かした協働によるまちづくり・観光地づくり」を基本理念とします。

この基本理念を実現するため、これまでの「萩まちじゅう博物館」の取組みを発展的に継承し、官民協働による「おたから」の活用と「おもてなし」の充実を一層進めることで関係人口の拡大を図ります。それにより、生きがいと誇りを持ち迎える市民と、そこに惹きつけられる人々が、萩のまちじゅうで出会い、新たな価値とよろこびを協働で創造するまちとツーリズムの実現を本計画の目的とします。

「萩まちじゅう博物館」開館当初（2004 年）の計画は、「市民の宝である文化遺産を、分かりやすく魅力的に展示し解説する活動」に重点を置き、「おたから」を発見し登録する仕組みと、それらを市民と訪問者が享受するための、中核博物館【コア】・地域博物館【サテライト】・発見の小道【トレイル】の仕組みの構築を中心に進められ、大きな成果と蓄積を生み出しました。

これを受け改定する今回の計画は、これまでの成果と蓄積を踏まえ、次の段階として、この「おたから」が散りばめられた屋根のない博物館で、市民・事業者・行政の連携・協働により全世界、全国から人々が萩をめざして訪れる目的地としての地域経営をよりいっそう展開します。

1-4 計画期間

本計画は、令和 3（2021）年度を計画基準年度とし、令和 9（2027）年度までの 7 ヶ年を計画期間とします。

1-5 計画の実施・検証体制

1. 実施主体

「萩まちじゅう博物館」の全体の実施主体は、以下とします。

- ・萩まちじゅう博物館の担い手
 - ⇒ 萩まちじゅう博物館に関わる全ての者（市民・民間事業者・萩市の外部人材やコーディネーター・行政等）
- ・萩まちじゅう博物館全体の統括・調整

- ⇒ 萩まちじゅう博物館推進委員会、萩市まちじゅう博物館推進課
- ・中核博物館【コア】の萩博物館による学芸活動
 - ⇒ 萩博物館
- ・中核博物館【コア】の萩・明倫学舎による情報発信
 - ⇒ 萩・明倫学舎推進課
- ・中核博物館【コア】である萩博物館、萩・明倫学舎及びこれを補完するゲートウェイの運営
 - ⇒ 担当する各NPO、事業者等
- ・地域博物館【サテライト】の情報発信、運営
 - ⇒ それぞれの地域・施設に関わる団体、事業者等

2. 検証体制

PDCA サイクルの考え方にに基づき、施策の実施状況や効果について点検・評価、見直し・改善を行い、翌年度以降の施策の展開に反映します。

進捗状況については、行政や関係団体、地域の代表者で構成される「萩まちじゅう博物館推進委員会」において進捗状況をチェックするとともに、本委員会における意見を施策の内容の見直し・改善などに反映します。

2 「萩まちじゅう博物館」基本計画

めざす将来像を再設定し、構想の基本理念「萩の“おたから”を活かした協働によるまちづくり・観光地づくり」を具体化するとともに、その実現に必要なミッションを示します。また、構想の基本方針に沿った施策の実施に必要な、仕組み・運営方針を定めます。

2-1 めざす将来像

萩のおたからを活かした地域活動や経済活動を、萩に住む人々や萩に関わりたい人々とが協働してつくり出す多様なコミュニティや民間組織が担い展開することで、以下のような、持続的に発展するまちづくり・観光地づくりの循環を生み出します。

○萩市民がゲストとして楽しむ「萩まちじゅう博物館」

市民や事業者等が来訪者（ゲスト）として、中核博物館【コア】や地域博物館【サテライト】を、日頃から繰り返し訪問・体験し、萩の魅力を再認識します。

○萩市民がホストとしてもてなす「萩まちじゅう博物館」

市民や事業者等が案内人（ホスト）となり、コアやサテライト、まちなかや店先のあちこちで、誇りを語るよろこびを感じながらゲストをもてなします。それが個人や世帯、事業の経済収益につながるような活動へと展開します。

○おもてなしにゲストが満足する「萩まちじゅう博物館」

「萩まちじゅう博物館」を目的地とした来訪者（ゲスト）が、期待通りに満足して萩のまちとの関係を深め、また知らずに訪れた客が「萩まちじゅう博物館」に自然に惹き込まれリピーターになるような、わかりやすく納得のいく、おもてなしとそれを支える仕組みを官民の協働によって展開します。

○おたからと経済がリンクする「萩まちじゅう博物館」

まちじゅうに散りばめられたおたからを、ブランド化し、そのブランドを活用した経済活動（ツアー、アクティビティ、イベント、土産物・グッズ、飲食メニュー等）に結び付けます。民間の参画を促す商品開発を積極的に展開するなど、官民協働で持続可能な活動としておたからを活用します。

○多様なコミュニティが活動する舞台としての「萩まちじゅう博物館」

ビジネス、趣味、ライフスタイル、課題解決などの目的を共有する様々なコミュニティ活動を活発化させ、市内外から萩のまちじゅうに人々が集う多様な活動へ発展させます。

2-2 将来像の実現に向けたミッション

「萩まちじゅう博物館」はこれまで、自然、文化、産業、歴史などの資源や景観、環境の価値を発見し保全する「おたからの再発見と共有」をおもなミッション（使命）として活動し、成果をあげてきました。今後はこれらの活動をより充実させながら継続しつつも、新たな段階として「おたからの活用と創造」により、萩の内外から人々やビジネスを惹きつける、魅力形成とブランド化につなげることが重要となります。移住・定住の促進、雇用創造、関係人口の拡大など、萩を観光目的地とする上での地域を運営する力が求められています。

こうした段階を具現化していくには、萩まちじゅう博物館が構想に掲げた基本理念「萩の“おたから”を活かした協働によるまちづくり・観光地づくり」に向けて、この基本計画・行動計画の内容を市民・事業者・行政の連携・協働により全国から人々が萩を目指して訪れる目的地として地域運営【デスティネーション・マネージメント（DM）】を展開する必要があります。

そこで「萩まちじゅう博物館」は、従来の官民を超えて、萩のまちづくり・観光地づくりの基盤として誰もが果たすべき「公益」のミッション（使命）と、これらを持続的な経済活動やコミュニティ活動に繋げていくための「収益」のミッション（使命）を両輪に、構想に掲げた4つの基本方針に基づいた萩まちじゅう博物館の運営を行います。

萩まちじゅう博物館の公益ミッション

- (1) おたからの再発見・登録と関連おたから群の設定・展開
- (2) おたから・関連おたから群の活用と保全
- (3) 市民の参画及び訪問者との交流と関係づくり
- (4) 民間団体・事業者のネットワーク化と活動支援
- (5) 萩まちじゅう博物館のブランド化の推進

萩まちじゅう博物館の収益ミッション

- (1) 萩まちじゅう博物館の仕組みを用いた経済活動
- (2) 官民協働による萩まちじゅう博物館ブランドを用いた事業展開
- (3) 萩まちじゅう博物館の活動を通じた新たなおたから・関連おたから群の創造

2-3 萩まちじゅう博物館の仕組み

上記に掲げたミッションを進めていくために、萩まちじゅう博物館ではまち全体を屋根のないひとつのおおきな博物館に見立てた以下のような仕組みを用意します。

1. 萩まちじゅう博物館の展示物・展示構成

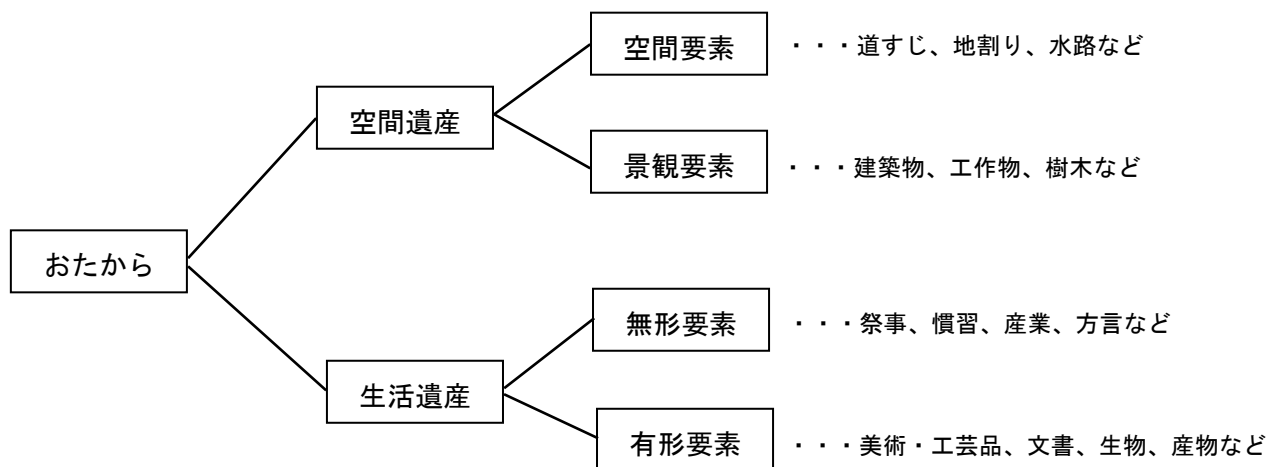
～おたからと関連おたから群（仮称）～

(1) おたから

「萩まちじゅう博物館」における「おたから」にはいろいろな特性があります。従来の文化財の考え方では捉えることのできなかった特性が含まれ、空間遺産や生活遺産までがあり、次のような属性によりおたからを分類します。

・空間遺産 不動産として土地に根を下ろして動かない遺産であり、これはさらに以下のような「空間要素」と「景観要素」に分けられます。

・生活遺産 その空間遺産を舞台として展開する動産の遺産で、これもまた「有形要素」と「無形要素」に分けられます。おたからの育成と活用に向けて、これらの特性を説明します。



空間要素



鍵曲（道すじ）

景観要素



萩駅（建築物）

無形要素



住吉祭り（祭事）

有形要素



萩焼（工芸品）

(2) 関連おたから群（仮称）

おたからをわかりやすく伝えていくために、「萩まちじゅう博物館」では以下のような「関連おたから群」という解説の枠組みをとります。「関連おたから群」は、拾い出された「おたから」を地域や特定のテーマに基づいたストーリーのもとに結び合わせ、ひとつの共有すべき遺産群としてまとめたものです。この「関連おたから群」の登録にあたっては、市民と各関係者の理解を得た上でひとつの名称を付けて登録して共有し、官民が協働して管理します。

(3) おたからデータベース／関連おたから群の管理

「おたから」および「関連おたから群」の意味や価値を記録し継承していくため、「おたからデータベース」「関連おたから群リスト」を作成し、それらを学校教育や景観づくり、観光まちづくり等に活用したいと考える人がいつでも利用できるようにします。

○おたからデータベースの管理

おたからデータベースとして、既に指定・登録等されている文化財をふくめ、まちじゅう博物館の活動で再発見された「おたから」を関連おたから群ごとに、リスト（一覧表）／個別カルテ（個別票）／マップ（位置図）からなる「おたからカルテ」として登録するとともに、今後、新たに指定等された文化財や再発見された「おたから」を追加登録して充実を図ります。

そして、登録されている「おたから」の定期的な監視（モニタリング）の実施により「おたからデータベース」の更新（項目の修正・追加・削除）を定期的に行います。

○関連おたから群の管理

「関連おたから群」の管理にあたっては、おたから群の普遍的価値（誰にでもわかる価値）の説明、構成する要素、これらを管理する主体者（団体や個人等）を明示し、管理状況の確認（モニタリング）や修理等の履歴を記して、おたからを継承と活用を図ります。

(4) おたから／関連おたから群を生み出す取り組み

「おたからデータベース」「関連おたから群」の管理を通じて、これらを保全、活用するだけでなく、将来の「おたから」「関連おたから群」の創造に繋げていくために、以下のような取り組みを展開します。

○おたから／関連おたから群の再発見・調査・認定・登録

「おたから」の保全と活用が進んでくると新たな視点や価値観が生まれ、さらなる「おたから」が見出されます。こうした流れを作るためにテーマや種別を定めた専門調査やワークショップ等の開催、市民等からの任意の登録申請募集などを企画し、これまで認定されていない「おたから」、さらには「関連おたから群」の創造を図ります。

○まちづくりと連携したおたからの創造

公共空間整備や民間事業者による開発行為等の際に「おたから」や「関連おたから群」を保全しつつ、その特性が生かされる空間づくり、景観づくりに官民協働で取り組みます。また、過去に失われた「おたから」の「空間遺産」であっても、その土地の履歴や特性を踏まえて復元、復旧、修景等の手法により、新たな「おたから」の創造に繋がります。

○新たな生活様式や文化、産業と結びつけたおたからの創造

上記の「おたから」の「空間遺産」に加え、日々の生活や生業の中で培われてきた「生活遺産」についても、これらを継承するとともに、自然、歴史、民俗、美術工芸などのあらゆる分野で、これらを現代の生活様式や文化、産業と掛け合わせ、新たな価値や魅力を持つ「おたから」の創造に繋がります。

○萩のアイデンティティを探究する調査研究の推進

こうした「おたから」の再発見、共有、活用、創造の循環を作っていくには、継続的に「萩」について調査研究を行い、「萩が萩であることの意味」やその拠り所となる考えや生活様式、行動様式を探究することを通じて、新たな「萩のおたから」創造の理念構築を図ります。

2. 萩まちじゅう博物館の回遊システム

～展開範囲【テリトリー】・中核博物館【コア】・地域博物館・交流施設【サテライト】・発見の小径【ディスカバリー・トレイル】～

「萩まちじゅう博物館」は、萩市全域を、様々な「おたから」や「関連おたから群」が展示物として散りばめられた「屋根のない博物館」と見立て、萩全域に展開するために、以下のようなテリトリー・コア・サテライト・トレイルから成る回遊システムを整備します。

(1) まちづくりの展開範囲【テリトリー】

「萩まちじゅう博物館」の活動を展開するテリトリーは萩市全域とします。このテリトリーに住む住民や営業する事業者等の誰もが活動に参加でき、ホストになることもゲストになることも可能です。そして、来訪客はテリトリーである萩市域に足を踏み入れた瞬間から「萩まちじゅう博物館」のゲストとして迎え入れられます。

この萩市全域をテリトリーとする「萩まちじゅう博物館」は、以下の、コア／サテライト／トレイルの3つの要素で構成される回遊システムによって機能します。



「萩まちじゅう博物館」のイメージ（上図）

(2) 中核博物館【コア】

中核博物館機能（萩まちじゅう博物館の情報・学芸の中核機能）は、観光起点である萩・明倫学舎と学芸機能の中核である萩博物館が連携して果たします。具体的には、多くの来訪者が最初に訪れる萩・明倫学舎において、「萩まちじゅう博物館」からのメッセージや萩市内に点在するサテライトに関する様々な情報、それらサテライトを回遊する仕組みであるコア／サテライト／トレイルの利用に関する情報を提供します。さらに萩の自然・歴史・文化・産業などをより深く学びたくなった来訪者には、萩博物館への訪問を促す仕掛けをつくります。

また、テリトリー外からの訪問者を確実にコア博物館に誘導するため、外からの交通結節点にゲートウェイを設定します。（道の駅、萩駅、東萩駅、萩バスセンターなど）

(3) 地域博物館・交流施設【サテライト】

地域博物館とは地域や特定のテーマに沿った関連おたから群が展開する一定範囲のエリアであり、「萩まちじゅう博物館」のまさに主役のコンテンツとなります。

そこには、交流施設としてそのエリアの関連おたから群を解説・案内機能を持ったサテライト拠点施設を設けます。

(4) 発見の小径（トレイル）

おたからについて、その関連性や価値を市民や来訪者にわかりやすく展示・解説していくための探索路を発見の小径（トレイル）と呼びます。様々なおたからを、「関連おたから群」の物語に基づいて設定されたこのトレイルに沿ってめぐることにより、これまで気づかなかったおたからの価値や魅力の再発見を促します。

3. 萩まちじゅう博物館の運営スタッフ

～萩おたからネットワーク～

市民・民間事業者・行政がそれぞれの立場から活動に参加し、役割を担い、協働することが重要となります。こうしたそれぞれの立場から、萩のおたからを見守り、保全し、そして活用する有機的かつ持続的な「おたからネットワーク」によって「萩まちじゅう博物館」は真に萩のまちづくり・観光地づくりとして運営されます。

(1) 市民の役割

- ①「萩まちじゅう博物館」を日常的に訪れる来訪者（ゲスト）としての役割
- ②「萩まちじゅう博物館」が正しくと運営されているかを監視するモニターとしての役割
- ③NPO等の会員となり「萩まちじゅう博物館」の運営主体として活動する役割
- ④「萩まちじゅう博物館」から得た様々な情報を用いてゲストにおたからを解説する役割
- ⑤身の回りにあるおたからを保全・継承・モニタリングする役割
- ⑥日常的なおたから探しや「萩まちじゅう博物館」に関係するイベントへの参加などによるおたから発見の役割
- ⑦自宅等の増改新築や造園の際、周辺のおたからへ配慮し景観づくりに努める役割

(2) 民間事業者の役割

- ①事業所を訪れる来訪者（ゲスト）への「萩まちじゅう博物館」に関するおたから解説
- ②業種・立地を生かしたおたから情報展示
- ③観光利便施設（駐車場、案内所、休憩所、トイレ等）としての事業所の活用
- ④萩まちじゅう博物館に関連するNPOの賛助会員等としての活動
- ⑤事業所の増改新築時における景観形成への貢献（修理・修景）

(3) 行政の役割

- ①おたからの保護と活用
- ②おたからの利用環境の整備（公共施設整備、景観保全・形成など）
- ③「萩まちじゅう博物館」への市外からのアクセスや市内での回遊利便性を高める環境整備（交通、情報基盤など）
- ④「萩まちじゅう博物館」としてのまちづくり活動、情報整備・発信等のソフト事業支援
- ⑤「萩まちじゅう博物館」解説員として養成する「おもてなし」精神の普及

3 「萩まちじゅう博物館」行動計画

基本計画で定めた、めざす将来像を実現するためのミッション、必要な仕組み・運営方針に沿って、実際に実施する個別具体的な取組や活動を定めます。

※新規取組については **新**、重点取組について **重** と標記

3-1 おたからの再発見・保存・活用・魅力発信

1. 調査・研究による価値の発見

(1) おたからの発見・調査・認定・登録

- ①萩の魅力を市民が再発見し、おたからとして申請・推薦を行う。
- ②おたからを認定する機会（おたから総会）を開催し、認定・登録を行う。
- ③認定された「おたから」等を公開する。
- ④「萩おたからデータベース」やカルテを更新し、記録・保存・伝承を推進する。

(2) 博物館や学術機関などによる調査・研究

重

- ①おたからの価値や魅力を学術的・専門的な見地から調査・研究し解明する。
- ②必要に応じて文化財指定・登録等の可能性を検討する。

(3) 市民等による研究

- ①NPO 萩まちじゅう博物館の学芸サポート班を中心に萩の自然・文化・産業・歴史に関する研究を行う。
- ②萩市外からの参加も積極的に受け入れる。

2. 展示、情報・魅力の発信

(1) 現地での魅力的な展示・解説を行うための基盤整備

重

- ①おたからは、可能なかぎり、ありのままの姿で正しく展示する。
- ②解説板の設置やインターネット等による案内を行う。
- ③既存施設などを再整備し、展示や情報発信などを行いサテライトとして活用を図る。

(2) 中核博物館・地域博物館での展示・解説、中核博物館の機能充実

- ①中核博物館、地域博物館は、常設展とともに定期的に企画展等を開催する。

重

②更新されていく情報が、いつでも入手、利用できるしくみを整備する。

新

③デジタル化、解説コンテンツの作成・提供、展示の拡張、VR 技術などを導入し中核博物館の機能充実を図る。

(3) 回遊システムの再構築

新

①市域入口をゲートウェイ機能として強化する。

重

②総合的かつ統一感のあるデザインのサイン計画・整備を行う。

新

③持続的に活用できるトレイルを開発する。

3. モニタリング、自然環境・景観保全による魅力の維持

(1) おたからのモニタリングシステムの構築

新

①各地区で定期的にモニタリングを行う仕組みをつくる。

②破損や滅失があった場合はその対処方法について検討する。

③おたからデータベースおよびカルテは、モニタリング結果を反映させ更新する。

(2) 自然や歴史的まちなみなどの景観の保全

①景観保全のため、建築行為等及び屋外広告物等の掲出について法令遵守に努める。

②まちなみ保全のため、所有者が行う保存・景観向上等の修繕等を補助する。

③保存・活用のための啓発・普及活動やイベントなどを行う。

④市民団体や企業等などと連携し、景観保全を図る。

(3) 世界遺産、文化財等個々のおたからの保存整備

①萩反射炉、恵美須ヶ鼻造船所跡、大板山たたら製鉄遺跡等の世界遺産やその他の文化財の保存整備を行う。

②文化財未指定のおたからについても、ワンコイントラストなどを活用し保存・保全を行う。

新

③ワンコイントラストで、寄付者などの意見を取り入れたりする新たな仕組みや、民間施設での寄付箱設置について推進を行う。

4. おたからの新しい活用

新

(1) ユニークベニューなどの実施

①使用基準等を見直し、文化財施設等で、実施するためのルール・仕組みをつくる。

②利用促進のため、市民や事業者、関係人口等に周知・広報を行う。

③先進事例を参照しつつ、民間活力の導入も選択肢としながら検討する。

④修学旅行等で SDG s に絡めたシティロゲイニングの実施を推進する。

(2) 無形のおたからの積極的な価値付け

- ①認知度の向上のため無形のおたからを積極的に活用するイベントの開催を支援する。
- ②VR等の技術を活用し、再現することにより、おたからの魅力・価値付けを行う。

新

3-2 おたからを通じた多様なコミュニティの形成・活動の推進

1. 行事、移住・定住等による交流の場の創造

新

(1) 祭等伝統行事の開催支援

- ①学校関係者や地域と協力し、児童・生徒が各行事に参加できるプログラムをつくる。
- ②観光事業者等と協働で見学客が各行事に参加できるプログラムをつくる。
- ③市内外からの各行事の支援者を増やし、運営や資金の協力を得る仕組みをつくる。

(2) 交流事業の開催

- ①各関連都市との交流事業を新規・継続で実施し、プロモーションして来訪を促す。
- ②上記の来訪客をターゲットとした、客層に合わせた地域探訪ツアーの開発・催行を推進する。
- ③市民活動・公民館活動にまちじゅう博物館の取組やおたからを活用し、活動を促進させる。

重

(3) 移住・定住制度との連携強化

- ①移住・定住サイト・パンフなどで「萩まちじゅう博物館」活動を紹介する。
- ②シティプロモーションでの「萩まちじゅう博物館」活動を紹介する。
- ③地域おこし協力隊を継続募集し、定住につながる活動を支援する。
- ④移住者と既存コミュニティの連携による、活動の拡大を推進する。

重

2. ICTによる利便性を活かした交流の促進

(1) SNSによる交流

- ①萩・魅力PR大使をはじめとする発信力のある市内外在住者への定期的な情報提供と、SNS等による情報拡散を依頼する。
- ②観光、農林水産など分野別のSNSを活用したコミュニティ構築の提案する。
- ③HP、SNSなどでの観光情報を発信する。

新

新

(2) リモート設備の充実

- ①中核施設などでリモートが利用できる環境を整備する。
- ②各サテライトなどで情報交換できる仕組みをつくり、利用促進、誘客を図る。
- ③リモート環境を活用したオンラインツアー等を開催する。

(3) 関係・交流人口の創造

重

- ①サテライトオフィスなどの誘致を行う。
- ②長期滞在やライフスタイルに沿った、観光商品（「城下町暮らし体験」など）を開発する。

3. 各種ツーリズム・体験観光の推進

(1) 農林漁業体験の受け入れ

重

- ①学校や企業に対し、情報提供を行い修学旅行等での利用促進を図る。
- ②農林漁業のおたから触れることのできる特別な体験として付加価値化させた旅行商品を造成する。
- ③農林漁家の受け入れ先確保、スムーズな受付手続きが行える仕組みを充実させ、受け入れ態勢を整える。

(2) 民泊事業の推進

重

- ①住宅の改修に伴う、経費等軽減のための補助を行い民泊事業の促進を図る。
- ②空き家・空き施設について、民泊等での利用促進を行う。
- ③地元農林水産物を使った食事の提供を行う。
- ④国内外の観光客や修学旅行、研修等幅広く利用してもらえるよう、HP、パンフレット等に民泊情報を掲載する。

4. 交流施設としての民間施設等の活用

新

(1) まち博スポットの設置

- ①まち博スポットの条件の設定し、民間施設等を観光利便施設やコミュニティの場としての利用を目指す。
- ②まち博スポットの看板設置、パンフ、サイト掲載を行い広く周知を行う。
- ③実際に観光サービス等の提供を行い、観光客の利便性を図る。

新

(2) まち博スポット同士の誘導システム

- ①スポット同士の周遊イベントなどの実施を推進し、周遊による経済効果を高める。
- ②周遊促進のためのさまざまなサービスを推進する。

3-3 おたからを活かした経済活動の推進

1. おたからのブランド化

(1) 文化財登録

- ①おたからの調査・研究を行う際、文化財登録要件も考慮する。
- ②登録にふさわしい物件については、諸手続きを行い登録を目指す。

(2) 食のおたからの周知や消費拡大・品質向上

重

- ①はぎマルシェなどのイベントによる PR・周知・消費拡大を図る。
- ②農林漁業の技術指導員による研修を実施し生産者の技術向上を目指す。
- ③補助事業を活用した設備投資への支援を行い、品質向上につなげる。

(3) メディア等を活用したイメージ向上

- ①フィルム・コミッションと協力し、おたからのメディアへの露出度を向上させる。
- ②各分野で影響力を持つ人物・組織を活用し、周知とイメージ向上を図る。

2. 経済的価値の創造

重

(1) おたからの商品化

- ①それぞれの特性や希少性を検証し、商品化のためのリストアップを行う。
- ②農林水産や商工分野の補助事業を活用した商品化の実現、生産性や付加価値の向上、販路の開拓の支援を行う。

重

(2) 体験プログラム、商品の造成

- ①観光客のニーズや活用できる資源を調査する。
- ②サイクリングや離島、ジオパーク等の新たなプログラムを作成し、モニターツアーなどを行い、内容を再検討する。
- ③実際に商品化を行いおたからを活かした、経済活動に結び付ける。

重

(3) コミュニティ組織の産業担い手化

- ①その地域ならではの体験プログラム等を行い地域活性化を図る。
- ②民間事業者と協働し、着地型観光の企画や運営を推進する。

3. 地域資源の付加価値

(1) 空き家・空き施設の活用

新

- ①民間企業の協力により、空き家を「宿泊施設」「店舗」などに活用することを推進する。
- ②空き家、空き施設を活用したイベント開催を推進する。

新

(2) 新たな発想により地域資源に付加価値をつける

- ①特色ある地域資源を活かし、体験フィールドとして開放する。
- ②産業、ひとづくり、交流の場として、旧明倫小学校校舎（3・4号棟）を整備し、活用する。
- ③大学等と連携し、数多く存在する地域資源の可能性を探り、付加価値を付けた活用に結び付ける。

4. 観光地経営の推進

(1) 「萩まちじゅう博物館」の周知・広報

新

- ①ポスター、観光パンフレット、ウェブサイト等にまちじゅう博物館のキャッチフレーズおよびロゴを使用し、知名度を向上させる。
- ②観光ウェブサイトとまちじゅう博物館ウェブサイトとが連動し、利用者が観光サイトからまち情報等を常に得ることができるようにする。
- ③萩版 DMO と連携したキャンペーン等の推進を行う。

(2) インバウンド客の誘致推進

新

- ①ターゲットとなる国や地域のニーズを把握し、おたからを観光に取り入れて、外国人観光客の満足度を高める。
- ②外国人の利便性を図るため、サインの見直しや Wi-fi 設置、外国語パンフレットの作成を進める。
- ③山口県、せとうちDMOなど他団体と連携したプロモーションを実施する。

新

(3) 持続可能・安心安全な観光地づくりの推進

- ①ビッグデータの分析に基づいた観光関連事業者の取り組みを支援する。
- ②おたからを活用した、イベントを開催し観光客誘致を図り、消費拡大を推進する。
- ③観光関係団体の協力により、ワンストップサービスを推進する。
- ④観光施設において、感染対策等を講じ、安心して楽しめる仕組みを構築する。

3-4 おたからを活かす人材の育成

1. 生涯学習を活用した人材の育成

(1) 地域学習の実施

- ①伝統文化や産業の体験を実施する。
- ②博物館や萩・明倫学舎など歴史や文化施設の見学を実施する。
- ③まちじゅう博物館体験（古地図まちあるきなど）を実施し、おたからを知るきっかけとする。
- ④公民館の協力や、萩博物館等の展示室を活用した地域学習、インターンシップ、出前講座を行う。

(2) ボランティア活動の推進

重

- ①地域を代表する行事について、子どもたちが参加しやすい環境を整える。
- ②河川海岸一斉清掃や地域の清掃活動への積極的な参加を依頼する。
- ③ボランティア活動団体の活動活性化のため、地域おこし協力隊やコーディネーターによる、事業企画・人材の確保等の協力を行う。

2. コーディネーターの育成・確保

(1) 人材の発見・発掘

重

- ①既存のまちじゅう博物館活動に携わっている人の中からの発見・発掘を行い、コーディネーターとしての活動につなげる。

新

- ②民間企業などからの発見・発掘を行い、派遣等の協力を依頼する。
- ③地域おこし協力隊制度を活用する。

(2) 育成事業の実施

新

- ①人材育成塾等を実施し、コーディネーターとして活動できる人材を育成する。
- ②人づくりセミナー等、人材育成や地域づくりを題材としたセミナーを実施する。
- ③移住・定住者、市民に、NPO まちじゅう博物館等、まちづくり団体の会員となり活動することを呼びかける。

3. おもてなし人材の育成

(1) NPO・市民団体などの活動支援

- ①各表彰制度を実施し、おもてなしへの意欲や活動の活性化を図る。
- ②NPO や市民団体が行う研修やセミナーについて、人材や企画をコーディネーター等

を活用して支援する。

(2) 観光ガイドの養成

①観光やジオパークなどに関する知識、接遇やコミュニケーション力向上のための研修会を開催し、ガイドのレベルアップを図る。

新

②まちじゅう博物館博やおたからに関するガイドマニュアルを作成し、知識やスキル向上に役立てる。

重

③課題を整理し、若年層にも積極的に観光ガイドに興味や関心を持ってもらうよう、ガイドにチャレンジしやすい環境づくりに努める。

(3) 萩検定、子どもものしり博士検定の実施

①萩検定について、初級は通年、中・上級を年1回開催する。

②子どもものしり博士検定を小学5・6年生対象に年1回開催する。

③検定合格者による研修等を実施し、継続して知識の向上や活用を図る。

4. 伝統文化・地場産業の後継者の育成

(1) 魅力化の促進

①生産性や付加価値の向上など、意欲ある事業者が取り組む新たな事業に対する補助を行い、収益性の高い経営モデルの確立を目指す。

②事業者の販路拡大・所得向上を図ることを目的として、マルシェ等イベントを開催する。

③萩の伝統文化・産業の魅力を広く全国に発信し、後継者の人材を募る。

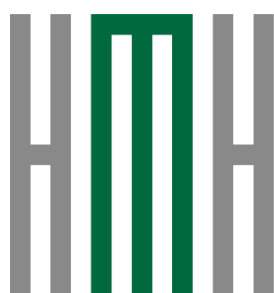
(2) 起業・定着支援

重

①起業や定着の相談やサポートを行い経済活動を活発化させる。

②行政等による農林水産、商工の起業・定着・事業継承の支援を行い後継者を増やす。

③萩を代表する伝統工芸「萩焼」の普及、後継者育成のための実証実験などを行う。



Hagi Machijyu Hakubutsukan

萩まちじゅう博物館

令和3（2021）年3月 初版